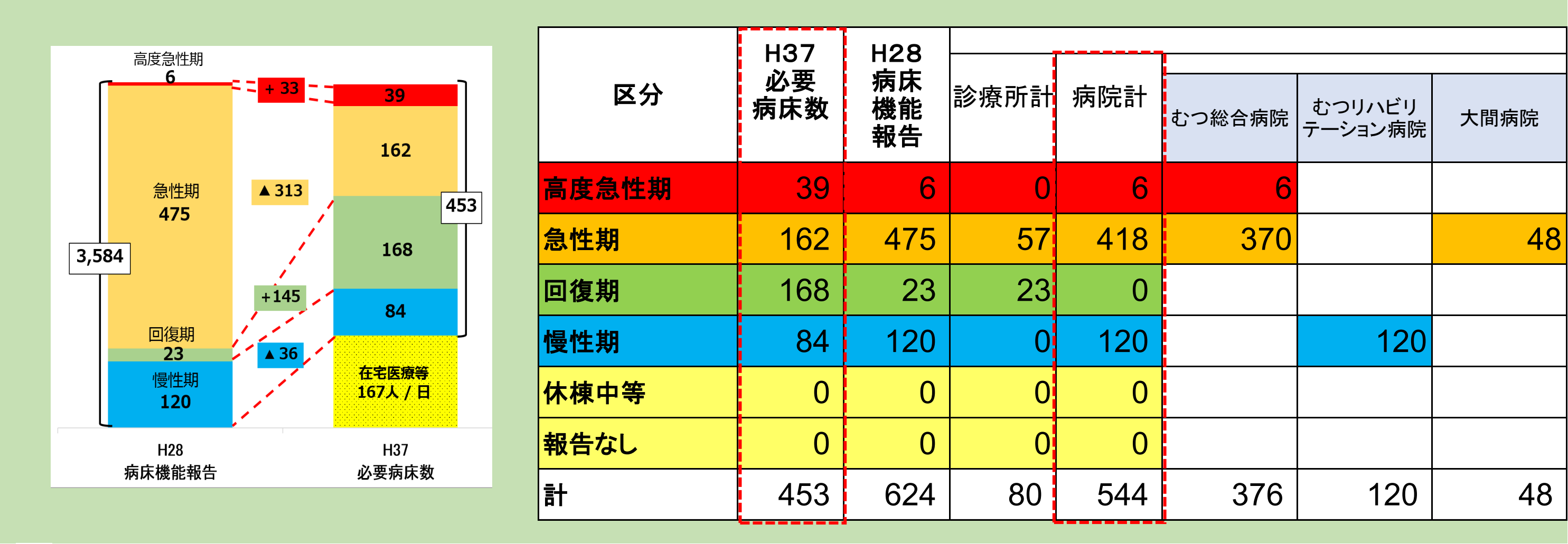


急性期の過剰、回復期の不足が見込まれている現状において、H28病床機能報告で急性期と報告のあった病院の診療実績等を比べ、高度急性期・急性期・回復期・慢性期について、H37必要病床数の姿に近づくための議論の参考として作成。



(考察)

- 将来の必要病床数と直近の病床機能報告の結果を比べると、高度急性期と回復期が少なく、急性期と慢性期が多い。
- 現在、入院医療で対応している患者のうち将来的に在宅医療へ移行することが可能と考えられる患者は、平成37年で167人と推計されており、新たに在宅医療の提供体制の整備が必要である。

1. 入院患者数

	むつ総合病院	むつリハビリテーション病院	大間病院
入院患者数(※1 1日あたり)	330	112	29
病床稼働率(※2 入院患者数／病床数(休棟中等、報告なし除く))	87.8%	93.3%	60.4%

(考察)

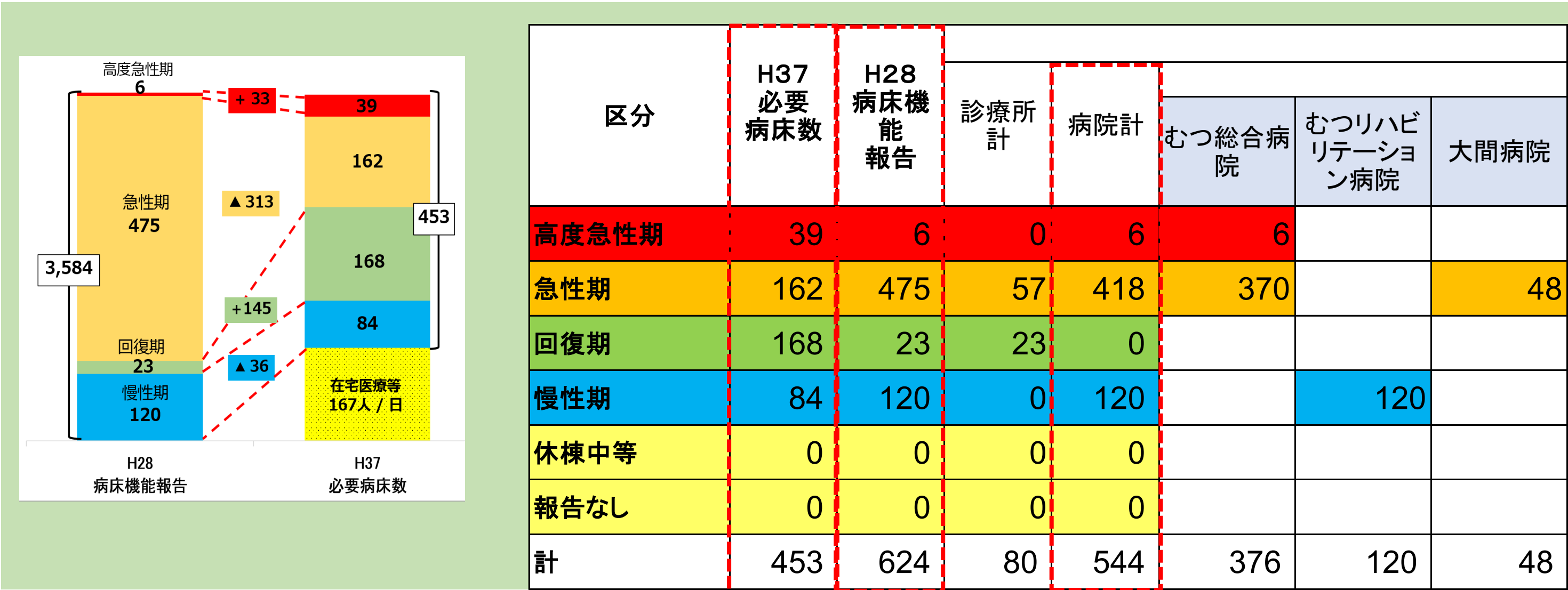
- 大間病院が病床稼働率8割を下回っている。

2. 算定する入院基本料届出病床数

	むつ総合病院	むつリハビリテーション病院	大間病院
一般病棟7対1入院基本料			
一般病棟10対1入院基本料	370		48
特定集中治療室管理料3	6		
小児入院医療管理料4			
短期滞在手術等基本料3			
療養病棟入院基本料1			
療養病棟入院基本料2		80	
介護療養病床において療養型介護療養施設サービス費等の届出あり		40	
合計	376	120	48

(考察)

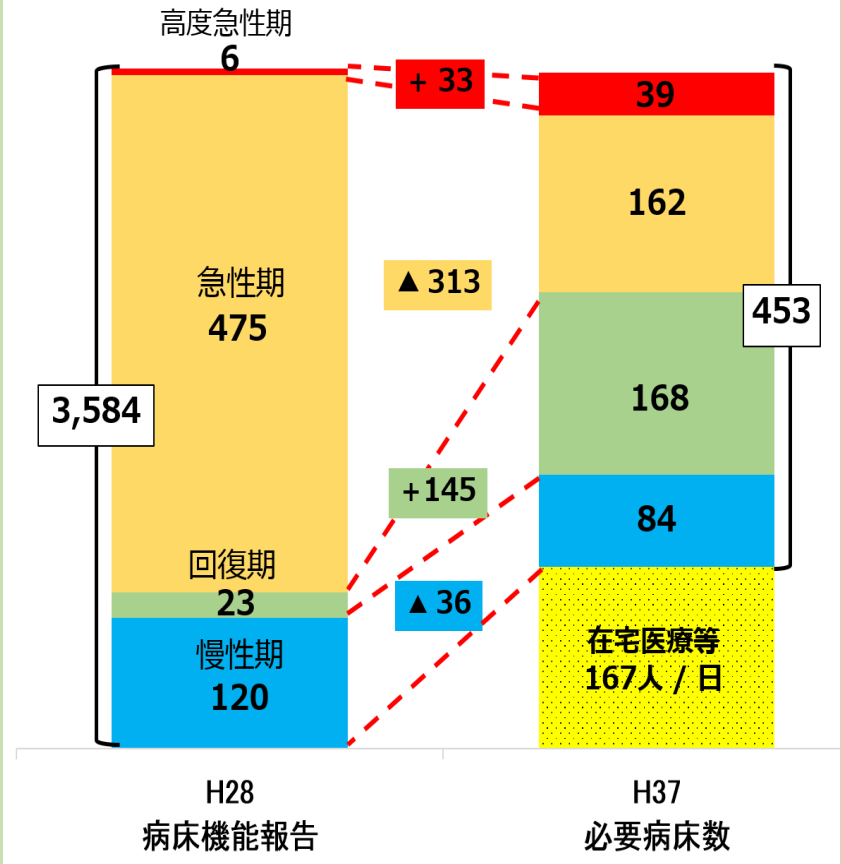
- 一般病棟7対1入院基本料を届出している病院はない。



3. 認定・届出等

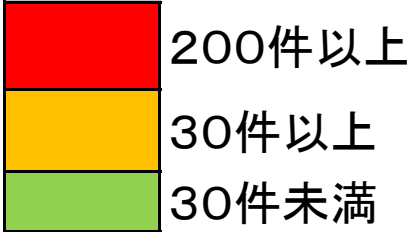
(項目の解説)		むつ総合病 院	むつリハビ リテーショ ン病院	大間病院
DPC医療機関群の種類	DPC制度とは、急性期の入院医療を担う医療機関において、患者に対し、入院日数に応じた1日あたり定額の医療費を請求する制度です。この項目は、DPC制度の対象となる病院の特性を示すもので、特性や疾患等に応じて1日あたりの医療費の設定が異なります。Ⅰ群が大学病院本院、Ⅱ群が大学病院本院に準じる病院、Ⅲ群がそれ以外の病院であることを示します。	Ⅲ群		
救急告示病院の告示の有無	救急告示病院とは、事故や急病等による救急患者を救急隊が緊急に搬送する医療機関として、都道府県知事が認めた病院です。また、救急患者のうち、入院医療が必要な重症な救急患者を休日や夜間に受け入れる医療機関を二次救急医療施設といいます。さらに、二次救急では対応できない重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる医療機関を三次救急医療施設と呼びます。	○		○
二次救急医療施設の認定の有無		○		○
三次救急医療施設の認定の有無				
在宅療養支援病院の届出の有無	在宅療養支援病院とは、24時間往診が可能な体制を確保し、また訪問看護ステーションとの連携により24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保している病院のことです。			○
在宅療養後方支援病院の届出の有無	在宅療養後方支援病院とは、在宅医療を受けている患者の急変時に備え、緊急入院を受け入れるための病床を確保している病院です。			

(考察)
・大間病院が在宅療養支援病院の届出を行っている。



区分	H37 必要 病床数	H28 病床機能 報告	診療所計	病院計	むつ総合病 院	むつリハビリ テーション病 院	大間病院
高度急性期	39	6	0	6	6		
急性期	162	475	57	418	370		48
回復期	168	23	23	0			
慢性期	84	120	0	120		120	
休棟中等	0	0	0	0			
報告なし	0	0	0	0			
計	453	624	80	544	376	120	48

4. 手術の状況

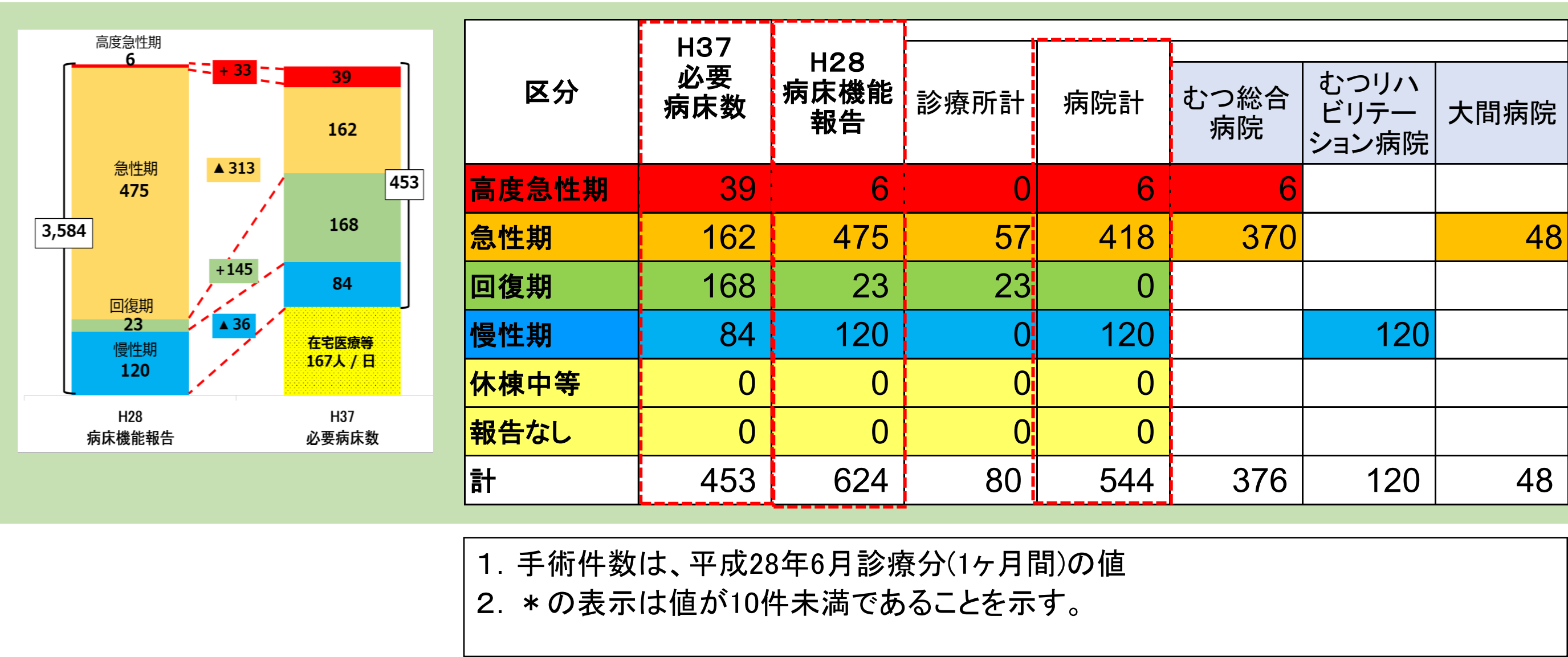


1. 手術件数は、平成28年6月診療分(1ヶ月間)の値
2. * の表示は値が10件未満であることを示す。

(項目の解説)			むつ総合病院	むつリハビリテーション病院	大間病院
手術総数			150件	0件	0件
臓器別の状況	皮膚・皮下組織	手術を受けた患者数と、手術の対象となった臓器別の患者数です。	*	0件	0件
	筋骨格系・四肢・体幹		18件	0件	0件
	神経系・頭蓋		*	0件	0件
	眼		0件	0件	0件
	耳鼻咽喉		*	0件	0件
	顔面・口腔・頸部		*	0件	0件
	胸部		*	0件	0件
	心・脈管		10件	0件	0件
	腹部		48件	0件	0件
	尿路系・副腎		15件	0件	0件
	性器		15件	0件	0件
	歯科		0件	0件	0件
	全身麻酔の手術件数			44件	0件
臓器別の状況	皮膚・皮下組織	全身麻酔を用いて手術を受けた患者数と、手術の対象となった臓器別の患者数です。	0件	0件	0件
	筋骨格系・四肢・体幹		11件	0件	0件
	神経系・頭蓋		*	0件	0件
	眼		0件	0件	0件
	耳鼻咽喉		*	0件	0件
	顔面・口腔・頸部		*	0件	0件
	胸部		*	0件	0件
	心・脈管		0件	0件	0件
	腹部		12件	0件	0件
	尿路系・副腎		*	0件	0件
	性器		11件	0件	0件
	歯科		0件	0件	0件
	胸腔鏡下手術			0件	0件
腹腔鏡下手術			*	0件	0件

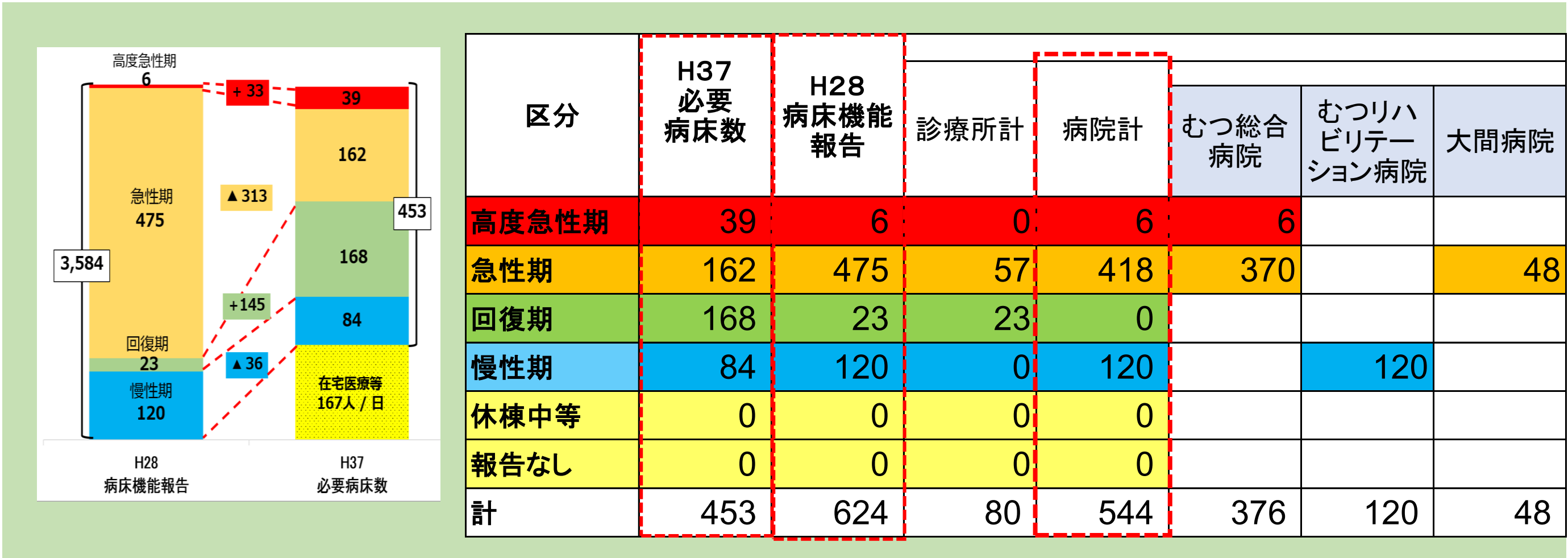
(考察)

- 手術件数の報告があったのは、むつ総合病院だけである。



5. がん、心筋梗塞、分娩への対応状況

(がん)		3 0 件以上			
		3 0 件未満	むつ総合 病院	むつりハ ビリテー ション病院	大間病院
(項目の解説)					
悪性腫瘍手術	がんを取るための手術です。値は手術を行った患者数です。		*	0件	0件
病理組織標本作製	患者の身体から採取した細胞や組織等を観察し、病気の確定診断をすることを病理診断といいます。病気の早期発見や治療方針の選択、治療効果の判定等にも役立ちます。値は病理診断に必要な標本(細胞の組織片等)を作成した患者数です。	52件		0件	0件
術中迅速病理組織標本作製	病気の良性・悪性の判断や切除範囲を決めるため、手術中に病理診断をすることを術中迅速診断といいます。そのための病理組織標本作製を、手術中に行った患者数です。		*	0件	0件
放射線治療	がん放射線に当てる(照射する)ことで、がんを縮小させる治療を放射線治療といいます。値は放射線治療を行った患者数です。		*	0件	0件
化学療法	化学療法は、抗がん剤によりがんを殺したり、小さくしたりする治療法です。値は化学療法を行った患者数です。(ここでいう抗がん剤とは、総務大臣が定める日本標準商品分類における「8742 腫瘍用薬」に指定されている医薬品のことを指します。)	47件		0件	*
がん患者指導管理料1及び2	がん患者が、診断結果や治療方法を理解し、納得のいく治療方針を選択できるよう、専門的な研修を受けた医師や看護師が、文書での説明や相談、指導を行っていることを示す項目です。値は相談や指導を行った患者数です。		0件	0件	0件
抗悪性腫瘍剤局所持続注入	がん患者に対し、カテーテル(細い管状の医療器具)等を用いて動脈や静脈等に抗がん剤を持続的に注入する治療です。値はこの治療を行った患者数です。	27件		0件	0件
肝動脈塞栓を伴う抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入	肝臓がん患者に対し、カテーテル(細い管状の医療器具)を用いて肝動脈内に抗がん剤を投入する治療方法を 抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入といいます。同時に、動脈の血流を遮断する物質を注入することで、肝臓のがんを殺す治療です。値はこの治療を行った患者数です。		0件	0件	0件



(心筋梗塞)

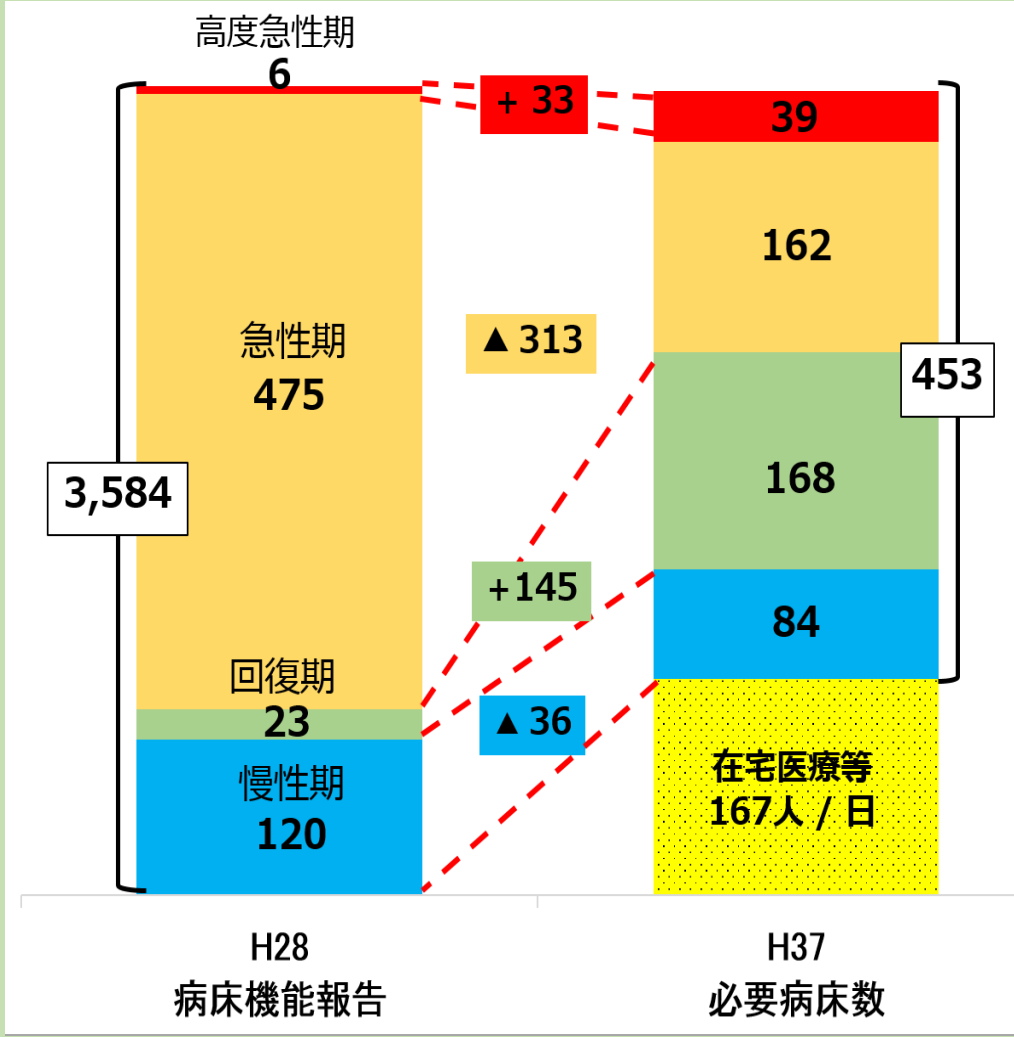
	(項目の解説)	むつ総合 病院	むつリハ ビリテー ション病院	大間病院
経皮的冠動脈形成術	経皮的冠動脈形成術は、狭心症や心筋梗塞等の患者に対し、胸部を切り開く開胸手術をせず、カテーテル(細い管状の医療器具)を用いて心臓の冠動脈を血管の内側から治療する手術です。値はこの手術を行った患者数です。	*	0件	0件

(分娩)

	(項目の解説)	むつ総合 病院	むつリハ ビリテー ション病院	大間病院
分娩件数(正常分娩、帝王切開を含む、死産を除く)	分娩を行った患者数です。	24件	0件	0件

(考察)

- 悪性腫瘍の手術、心筋梗塞の手術(経皮的冠動脈形成術)を行っているのは、むつ総合病院だけである。
- 分娩取扱を行っているのは、むつ総合病院だけである。



区分	H37 必要 病床数	H28 病床機能 報告					
			診療所計	病院計	むつ総合 病院	むつリハビリ テーション病院	大間病院
高度急性期	39	6	0	6	6		
急性期	162	475	57	418	370		48
回復期	168	23	23	0			
慢性期	84	120	0	120		120	
休棟中等	0	0	0	0			
報告なし	0	0	0	0			
計	453	624	80	544	376	120	48

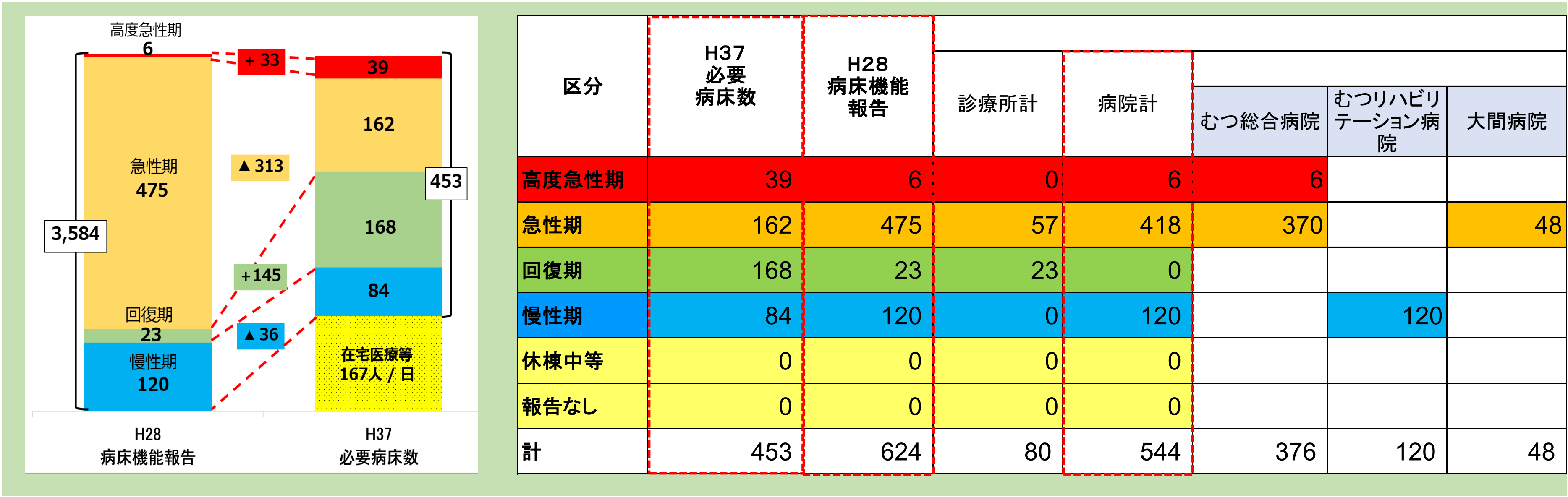
1. 診療実績等のデータは平成28年6月診療分(1ヶ月間)の値
2. * の表示は値が10件未満であることを示す。
3. 「休日に受診した患者延べ数」、「夜間に受診した患者延べ数」、「救急車受入件数」については、平成27年7月1日から平成28年6月30日までの1年間の件数

6. 救急医療の実施状況

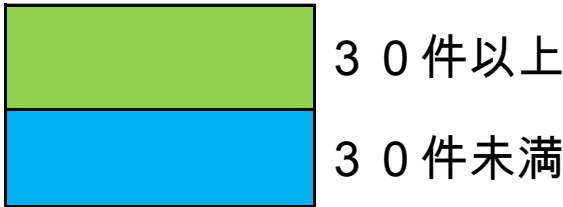
		750件以上（社会医療法人の認定要件：夜間・休日 救急車受入件数＝年750件以上）			
		750件未満			
(項目の解説)			むつ総合 病院	むつリハビリ テーション病院	大間病院
救急医療管理加算1及び2	意識障害、昏睡等の重篤な状態の患者の緊急入院を受け入れていることを示す項目です。値は休日又は夜間に緊急入院し、救急医療を行った患者数です。		139件	0件	27件
休日に受診した患者延べ数	休日(日曜、祝日、年末年始)に受診した患者数と、そのうち診療後にただちに入院が必要となった患者数です。		6,343人	0人	518人
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数			829人	0人	76人
夜間・時間外に受診した患者延べ数	夜間・時間外(医療機関が表示する診療時間以外の時間(休日を除く))に受診した患者数と、そのうち診療後にただちに入院が必要となった患者数です。		3,747人	0人	857人
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数			672人	0人	171人
救急車の受入件数	救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数です。		1,641件	0件	240件
救命のための気管内挿管	気管内挿管は、気道確保を行うためのチューブ等を口や鼻から挿入する処置です。値は救命措置として気管内挿管を行った患者数です。		*	0人	*

(考察)

- 救急車受入件数が年間750件を超えているのはむつ総合病院だけであり、年間約1,600件の受入れを行っている。



7. リハビリテーションの実施状況



(項目の解説)

1. 診療実績等のデータは平成28年6月診療分(1ヶ月間)の値
2. * の表示は値が10件未満であることを示す。

		むつ総合病院	むつリハビリテーション病院	大間病院
疾患別リハビリテーション料	患者の疾患や状態に応じたりハビリテーションを行った患者数です。	163件	54件	27件
心大血管疾患リハビリテーション料	心筋梗塞、狭心症、慢性心不全等の患者に対し、必要な心機能の回復、疾患の再発予防等を図るために行うリハビリテーションです。値はリハビリテーションを行った患者数です。	0件	0件	0件
脳血管疾患等リハビリテーション料	脳梗塞、脳出血等の患者に対し、必要な基本動作能力、言語聴覚能力等の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	16件	36件	11件
運動器リハビリテーション料	脊椎損傷による四肢麻痺、関節拘縮(かんせつこうしゆく:関節の動きが制限された状態)等の患者に対して、必要な基本的動作能力等の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	71件	*	*
呼吸器リハビリテーション料	肺炎、肺腫瘍、慢性の呼吸器疾患等の患者に対し、症状に応じて必要な呼吸訓練等を行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	*	0件	0件
障害児(者)リハビリテーション料	脳性麻痺、発達障害等の患者に対し、状態に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件	0件	0件
がん患者リハビリテーション料	がんの患者に対し、治療の過程で生じた筋力低下、障害等の改善を目的として行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	11件	0件	0件
認知症患者リハビリテーション料	重度の認知症患者に対し、必要な認知機能や社会生活機能の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件	0件	0件
早期リハビリテーション加算(リハビリテーション料)	治療開始後の早期段階(治療開始日から30日以内)からリハビリテーションを行っていることを示す項目です。値は早期段階のリハビリテーションを行った患者数です。	85件	*	17件
初期加算(リハビリテーション料)	治療開始後の初期段階(治療開始日から14日以内)からリハビリテーションを行っていることを示す項目です。値は初期段階からリハビリテーションを行った患者数です。	51件	*	13件
摂食機能療法	食べる機能(摂食機能)が落ちている患者に対し、症状に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	*	*	0件
リハビリテーション充実加算(回復期 リハビリテーション病棟入院料)	より多くのリハビリテーションを集中的に提供できる病棟であることを示す項目です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	0件	0件	0件
体制強化加算(回復期リハビリテーション病棟入院料)	患者の早期の機能回復や退院を促進するために、専門の医師や社会福祉士を配置していることを示す項目です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	0件	0件	0件

平成28年度 病床機能報告結果（診療実績等）における考察部分の再掲

（各医療機能区分の病床数について）

- ・ 将来の必要病床数と直近の病床機能報告の結果を比べると、高度急性期と回復期が少なく、急性期と慢性期が多い。
- ・ 現在、入院医療で対応している患者のうち将来的に在宅医療へ移行することが可能と考えられる患者は、平成37年で167人と推計されており、新たに在宅医療の提供体制の整備が必要である。

（入院患者数について）

- ・ 大間病院が病床稼働率8割を下回っている。

（算定する入院基本料届出病床数について）

- ・ 一般病棟7対1入院基本料を届出している病院はない。

（認定・届出等について）

- ・ 大間病院が在宅療養支援病院の届出を行っている。

（手術の状況について）

- ・ 手術件数の報告があったのは、むつ総合病院だけである。

（がん、心筋梗塞、分娩への対応状況について）

- ・ 悪性腫瘍の手術、心筋梗塞の手術（経皮的冠動脈形成術）を行っているのは、むつ総合病院だけである。
- ・ 分娩取扱を行っているのは、むつ総合病院だけである。

（救急医療の実施状況について）

- ・ 救急車受入件数が年間750件を超えているのはむつ総合病院だけであり、年間約1,600件の受入れを行っている。